

SPEAK-IPA

ソフトウェアプロセスの供給者能力判定 およびアセスメントキットーIPA 版

第 6 部：用語集

Software Process Evaluation & Assessment Kit issued by IPA
Part 6: Vocabulary

Rev.1.0.2.0

2007 年 9 月 25 日制定
2011 年 3 月 28 日改訂
2013 年 3 月 26 日改訂

独立行政法人 情報処理推進機構
ソフトウェアエンジニアリングセンター

- ソフトウェアプロセスの供給者能力判定およびアセスメントキットーIPA 版(以下、**SPEAK-IPA**と記す)は、新日鉄住金ソリューションズ株式会社(旧新日鉄ソリューションズ株式会社)が開発し知的所有権を有する**SPEAK**と、一般社団法人情報サービス産業協会(旧社団法人情報サービス産業協会)が開発し知的所有権を有する**SPINACH**を基に、両者の許可を得て経済産業省タスクフォースであるプロセス改善研究部会(2007年当時)で広く一般に公開できるよう編集作業を行なったものです。
- **SPEAK**はIPAの登録商標です。(新日鉄住金ソリューションズ株式会社より移管されています。)
- **SPEAK-IPA**は、次の三者が共同知的所有権を保持するとともに、次の三者により無償で再配布されることが許可されています。
 - 独立行政法人 情報処理推進機構
 - 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
 - 一般社団法人情報サービス産業協会

用語集 目次

用語集 目次.....	iii
改訂管理表.....	v
1 はじめに	1
2 定義.....	2
2.1 アクタ	2
2.2 アセスメントチーム	2
2.3 アセスメントツール	2
2.4 アセスメントのゴール	2
2.5 アセスメント依頼者	2
2.6 アセスメント参加者	2
2.7 アセスメント出力	2
2.8 アセスメント入力	2
2.9 アセッサ	2
2.10 アセッサの役割	3
2.11 アセッサ能力	3
2.12 アセッサ能力の基準	3
2.13 依頼者の確約(コミットメント)	3
2.14 インジケータ(Indicator)	3
2.15 オブザーバ	3
2.16 会議の仕組み	3
2.17 外部チーム	3
2.18 簡易アセスメント	3
2.19 供給者能力判定	3
2.20 継続的改善	4
2.21 構成管理ツール	4
2.22 作業分担表	4
2.23 実施管理	4
2.24 情報交換の仕組み	4
2.25 成果物管理	4
2.26 製品の品質特性	4
2.27 対象組織	4
2.28 達成判定基準	5
2.29 妥当性確認(Validation)	5
2.30 定義したプロセス	5
2.31 テーラリング(修整)	5
2.32 適合アセスメント	5
2.33 適合する(Conform)	5
2.34 動機付け方針	5
2.35 内部チーム	5
2.36 能力水準(Capability Level)	5
2.37 評価(Rating)	5
2.38 品質方針	6
2.39 プラクティス	6

2.40 プロジェクト計画ツール	6
2.41 プロジェクト計画書.....	6
2.42 プロセス.....	6
2.43 プロセス改善 (Process improvement)	6
2.44 プロセス資源.....	6
2.45 プロセス実施.....	6
2.46 プロセス種別.....	6
2.47 プロセス属性 (Process Attribute)	6
2.48 プロセス標準書.....	7
2.49 プロファイル.....	7
2.50 文書化活動方針.....	7
2.51 山積み表.....	7
2.52 要求事項 (Requirements)	7
2.53 ライブラリ	7
2.54 レビューア	7
2.55 レビュー記録.....	8
2.56 EPG	8

改訂管理表

改訂番号	改訂内容	発行日・改定日	作成	照査	承認
1.0.0.0	初版発行	2007 年 9 月 25 日	北野 近藤 伏見 堀田 室谷	北野 近藤 伏見 堀田 室谷 足立 安達 江崎 串田 砂塚	新谷
1.0.1.0	アセッサ区分の変更とそれに伴う内容の変更	2011 年 3 月 28 日	板橋 釘宮 込山 阪本 丹羽 堀田 倉持 室谷	板橋 釘宮 込山 阪本 丹羽 堀田 倉持 室谷	新谷
1.0.2.0	Copyright の年月修正、他部とのバージョン合わせ	2013 年 3 月 26 日	板橋 斎藤 込山 阪本 丹羽 堀田 倉持 室谷	板橋 斎藤 込山 阪本 丹羽 堀田 倉持 室谷	新谷

(空白ページ)

1 はじめに

SPEAK-IPA 第 6 部は、SPEAK-IPA で使用する用語を定義している。また、参照しやすくするために 50 音順に並べた一覧とした。

なお、記載されている用語は、SPEAK-IPA の理解を助けるために整理したものであり、一般的に使用されている用語については対象外としている。

2 定義

2.1 アクタ

プロセスアセスメントの過程で特定の役割や責任を担う人あるいはチームのこと。

2.2 アセスメントチーム

適合アセスメントを行う 2 人以上のアセッサおよびアセッサを支援する専門家からなるチーム。アセスメント対象のソフトウェアプロセスの弱み強みを、文書化された手順に従って診断し、報告をまとめるチーム。アセスメントチームには 2 人以上の適格アセッサを含むことが必要である。

2.3 アセスメントツール

アセスメントを通じて使う道具または道具群。アセッサが、プロセスの実施または能力を評価しアセスメントデータを操作しアセスメントの結果を記録することを助ける。ツールは必ずしもソフトウェアに限らない。

2.4 アセスメントのゴール

アセスメントを実施した結果として、得られる成果の目標。

2.5 アセスメント依頼者

診断する組織の内部または外部の個人で、アセスメントを実行することを要求し、アセスメントに必要な財政的または他の資源を提供する人。

2.6 アセスメント参加者

アセスメント対象組織の人間で、アセスメントの際インタビューやドキュメントレビューに答える出席者。アセッシ。

2.7 アセスメント出力

アセスメントの具体的な結果のすべて。

2.8 アセスメント入力

プロセスアセスメントを始める前に必要となる情報の集合。

2.9 アセッサ

ソフトウェアプロセスのアセスメントを行うために一定以上の能力を持った人。

2つの区分のアセッサを定義している。

・適格アセッサ

ソフトウェアプロセスのアセスメントを行うために実証可能なスキルと経験を有する上級アセッサ。

適合アセスメント実施において、アセスメントチーム内の準アセッサの実地指導の役割を担う。

・準アセッサ

アセッサ教育を受け、アセスメントの基礎知識を得たアセッサ。まだアセスメントの実施経験が無いが、実施経験が浅いアセッサ。適合アセスメントでは、適格アセッサの指揮のもとでアセスメントができる。

2.10 アセッサの役割

アセッサが行うべき作業内容。プロセス能力評定を客観的公平な目で推進することが主な役割。

2.11 アセッサ能力

アセッサが保有する能力。ソフトウェアプロセス面、アセスメント面、個人的属性面の 3 分類での能力が必要とされる。

2.12 アセッサ能力の基準

アセスメント入力の一つで、アセスメントを実施する際に求められるアセッサの能力に関する要件。

2.13 依頼者の確約(コミットメント)

やると言ったことをやる/やらせることを確実にすること。

2.14 インジケータ(Indicator)

プロセスの管理を支援するための仕組みを提供する指標(群)。プロセス属性の達成の度を客観的に測るためのプロセス能力の指標。

2.15 オブザーバ

アセスメントの質疑応答には参加しないが、アセスメント過程を傍観者として見ることを許された人間。

2.16 会議の仕組み

関係者が集まり、討論・相談や決議をする仕組み。

2.17 外部チーム

アセスメント対象組織外のメンバで構成されるアセスメントチーム。チームリーダが対象組織外であれば、対象組織メンバを含んでも外部チームに分類する。

2.18 簡易アセスメント

適合アセスメントとは異なり、文書化されたアセスメントモデルに基いてさえいれば、アセッサ資格の有無やアセスメント手法にこだわらずに行えるアセスメント。ポイントを絞った改善のためのアセスメントや、適合アセスメント実施前の自己診断などに使われる。

2.19 供給者能力判定

供給者(製品/サービスを提供する組織、会社)を選定する場合、期待する一定基準以上のプロセス能力があるか否かの判定を行うこと。

2.20 継続的改善

ソフトウェアプロセスの実行状況を監視し、データを取得し、レビューを通して、より有効なプロセスへと継続的に改善すること。

2.21 構成管理ツール

下記のことを支援するツール：

版制御、
構成品目（およびその版）の保管および検索、
影響を受けたグループ間で構成品目を共有および転送する、
利用の効果的制御、
構成品目記述を保守する、
構成品目の保管版の回復、
ライブラリからの製品の正しい作成、
すべての出荷またはテスト構成を再構築できる、
構成状況を報告する能力、
構成品目への変更が変更/使用者の要求に沿って追跡される

2.22 作業分担表

WBS に対し、プロジェクトの各要員の能力や資質、適正などを勘案して作成する役割分担表。

2.23 実施管理

定義した目標値を満足する作業生産物を生産するために、プロセスの実施を管理すること。

2.24 情報交換の仕組み

情報を配付する方法のこと。何がいつ/誰または何処に/漏れなく/返答可能で、などの特性が必要。メールやグループウェアのようなツールもあれば、会議体や連絡網のようなものも関係する。仕組みには、設備/運用/制度を含む。

2.25 成果物管理

適切に文書化し、制御し、検証した作業生産物を生産するために、プロセスの実施を管理すること。

2.26 製品の品質特性

ソフトウェア製品の品質を記述し、評価するソフトウェア製品の属性の集合。一つのソフトウェアの品質特性は、複数の階層の副特性に展開してもよい。→ISO/IEC 9126 参照

2.27 対象組織

アセスメントを受ける側のプロジェクトあるいは組織。

2.28 達成判定基準

アセスメントのゴールを達成したかどうかを判定するための基準値。必ずしも定量的である必要はない。

2.29 妥当性確認(Validation)

インジケータを提示することによって特定の意図された用途または適用に関する要求事項が満たされていることを確認すること。→ISO9000 3.8.5 参照

アセッサごとに集めた観測結果が客観的でプロセス実施の証拠として使用可能であるかどうかを吟味すること。

2.30 定義したプロセス

特定の目的を達成するための活動群の実施上の定義。

2.31 テーラリング(修整)

規定のプロセスをプロジェクト特性に応じてカスタマイジングし、適切なフレームを設定すること。テーラリングとは、テーラーする(服の仕立てする)からきており、「特別の用途に適合させるための改造、改作、変更」である。

2.32 適合アセスメント

ISO/IEC 15504 第 2 部の規格要求事項を全て満たすアセスメント。

SPEAK-IPA は ISO/IEC 15504 に適合したアセスメントモデルのため、SPEAK-IPA の手順に基づいて行ったアセスメントは、適合アセスメントとなる。

2.33 適合する(Conform)

あるプロセス参照モデル、またはプロセスアセスメントモデル、またはプロセスアセスメントについて、それが ISO/IEC 15504 の第 2 部で規定している適合性の検証の要求事項を満たすとき、ISO/IEC 15504 に適合しているという。

2.34 動機付け方針

プロセスアセスメントの参加者が、アセスメントに対して公開的で建設的になるように動機付けするための、組織管理者が示すプロセスアセスメントへの取り組み方針。

2.35 内部チーム

対象組織のメンバだけで構成されるアセスメントチーム。内部チームは適合アセスメントの実施はできない。

2.36 能力水準(Capability Level)

プロセス能力の段階的な尺度の一段階。

あるひとつのプロセスに着目し、そのプロセスの能力がどの段階にあるかを評価したもの。

2.37 評価(Rating)

プロセスの実施の程度あるいは能力水準の程度を段階的に評価すること。その結果。

2.38 品質方針

品質方針は品質目標を設定し、そのレビューを行うための枠組みを提供するものであり、品質原則に対する責任を記述する。

2.39 プラクティス

プロセスの目的を達成するための基盤となる活動。プロセスの目的を達成するために「何」がなされるべきかを記述したものであって、「どのように」するかを強制するものではない。

2.40 プロジェクト計画ツール

プロジェクトの計画を立てることを支援し、さらにそれに従って実行することを支援するツール。複数のツールを利用することが多い。

例えば、プロジェクト管理/制御ツール、意思疎通の方法/手続き/ツール、作業工程(ワークフロー)管理ツール、情報交換の仕組みなど。

2.41 プロジェクト計画書

上級管理者の承認を受けたシステム開発を、納期までに、より効率的に、顧客の満足する形で実現するために、プロジェクトの実行計画を記述したもの。開発規模・要員・工数の見積り、費用、開発体制、開発スケジュールなどが記載される。

2.42 プロセス

活動遂行のために定義された手段であり、決められた結果を遂行できるように設計された一連の手法あるいは手順のこと。

2.43 プロセス改善(Process improvement)

組織の業務要求に合い、ビジネスゴールをより効率的に達成するために組織のプロセスを変更する活動。

2.44 プロセス資源

プロセスが、定義したプロセスを展開するために適切に配置したふさわしい資源(例えば、人的資源やプロセス環境)。

2.45 プロセス実施

プロセスの目的を達成するプロセスの実行の程度。

2.46 プロセス種別

プロセスの種類。SPEAK-IPA ではISO/IEC 12207 Amd.1 Annex Fに準拠して、全部で31種類のプロセスについてアセスメントモデルを定義している。

2.47 プロセス属性(Process Attribute)

あるプロセスが備えるべき能力を段階(ISO/IEC 15504 では9段階)に分け、その特徴を明らかにしたもの。

2.48 プロセス標準書

標準プロセス定義は、組織内の必要な人すべてが利用できるものであり、プロセス実施に対する文書化された組織方針組織全体で実施されている現行のプラクティスに基づく文書であり、その有効性が確認され、承認されているものである。

標準プロセス定義は、下記を含む組織の標準の文書である。

作業生産物の入出力

作業詳細化構造(WBS)

関連する基本プラクティスと調和して実行される作業(task)

作業(task)の所有権

作業(task)の完了を示す客観的基準

内部と外部のインタフェースと依存関係の定義

品質管理

プロセス

2.49 プロファイル

ソフトウェアプロセスの弱み強み客観的な視点で比較・評価できるように 2 次元形式に表現したもの。プロセス評定集合。

2.50 文書化活動方針

ソフトウェア製品/サービスのライフサイクル期間を通して、どこで、いつ、何を文書化するかを示す。→ISO/IEC 15504 第 5 部 Annex B 参照

2.51 山積み表

単位期間(または工程別)の工数を合計して一覧表にしたもの。通常は棒グラフをつけて視認性を良くする。期間単位に必要な要員が分かりやすいので、人的資源配分の検討に用いられる。

2.52 要求事項(Requirements)

新しい製品および/またはサービスに対するニーズを満たすシステムおよびまたはソフトウェア製品に対する要求。通常、潜在的顧客に対して内部的に導き出した要求事項に応じて導き出された潜在的ニーズも含む。

2.53 ライブラリ

本を集め、保管、利用に供する図書館(ライブラリ)にならい、プログラムやデータを体系的に組織し、保管する場所やツール。集めたプログラムやデータそのものをライブラリということもある。

2.54 レビューア

レビューを実施する(査定をする側の)人。これに対してレビューを受ける側をレビューイ(reviewee)と言う。また、レビューとは、設定された目標を達成するための検討対象の適切性、妥当性、および有効性を判定するために行われる活動。→ISO9000 3.8.7 参照

2.55 レビュー記録

レビュー対象、レビュー参加者、レビュー状況、レビューの範囲および網羅性に関する情報、求められる是正処置の識別などの情報を提供するもの。

2.56 EPG

Engineering Process Group の略。組織内の開発プロセスの定義、維持を行う組織(グループ)の意味。

EPG がプロセスアセスメントやプロセス改善の推進母体となる場合が多い。従って、EPG には、単にプロセスや標準化に関する知識だけでなく、開発の実務経験やコミュニケーションスキルも備えていることが望ましい。